

主催：領域 7（運営委員）

1. 学生優秀発表賞表彰式
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域運営委員の紹介
4. 次期領域代表・副代表の選出・承認【審議事項】
5. 次々期運営委員の選出・承認【審議事項】
6. 年次大会のポスターセッション・学生賞のご案内
7. メーリングリスト運用に関して
8. 関連会議・シンポジウムの紹介
9. 次回大会について
10. その他

傾角反強磁性体 κ - $\text{ET}_2\text{Cu}[\text{N}(\text{CN})_2]\text{Cl}$ の磁場誘起スピン再配向

石河 孝洋 (物材機構)

中 惇 (早稲田大)
2018 年 4 月～2019 年 3 月
毛利 真一郎 (立命館大)
川相 義高 (理研)

3. 次期運営委員の紹介

任期：2018 年 4 月～2019 年 3 月
○分子性固体
毛利 真一郎 先生 (立命館大)
○有機導体
川相 義高 先生 (理研)
任期：2018 年 10 月～2019 年 9 月
○分子性固体
菅原 克明 先生 (東北大)
○有機導体
吉見 一慶 先生 (東大物性研)

4. 次期領域代表・副代表の選出・承認 [審議事項]

現領域代表と副代表により、次期領域代表と副代表として以下の方々を選出し、承認された。

●次期領域代表

任期：2019 年 4 月～2020 年 3 月
山本 浩史 先生 (分子研)

●次期領域副代表

任期：2019 年 4 月～2020 年 3 月
岡田 晋 先生 (筑波大学)

5. 次々期運営委員の選出・承認 [審議事項]

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

任期：2019 年 4 月～2020 年 3 月
○分子性固体
蓬田 陽平 先生 (首都大学東京)
○有機導体
磯野 貴之 先生 (学習院大学)

6. 年次大会のポスターセッション・学生賞のご案内

運営委員により以下の内容について説明があった。

目的：

春は（特に修士一年の）学生にとって貴重な発表の機会であるため、そこにポスターセッションならびに学生賞を設けることで、領域7における大学院生の参加数増加、発表数増加、議論・情報交換の活性化を目指す。

領域7における学生優秀発表賞の規定（秋季大会・年次大会共通）：

（1）対象

ポスター発表を対象とする。

（2）応募資格

第一著者として発表を行う者。発表者が、発表する研究の主要部分に寄与していること。過去に、領域7において学生優秀発表賞を授賞していないこと。

（3）応募方法

学生優秀発表賞に応募する場合は、講演申込（Web 登録）において、200 文字の講演要旨入力欄の最初に「学生優秀発表賞応募」と記入する。

（4）審査員

審査員は、領域代表が、領域副代表及び領域運営委員と協議の上、領域全体から分野のバランスを考慮して選出する。

（5）審査方法

審査員は、各発表について、研究内容（研究の意義と新規性、実験・考察の妥当性）、およびプレゼンテーション（説明の分かりやすさ、質疑応答、完成度）をもとに採点を行なう。発表一件に対し、原則三名の審査員が審査にあたる。ただし、審査員が発表の共著者である場合は、該当する発表の審査に加わらないこととする。

（6）授賞者の決定

領域代表、副代表、及び、領域運営委員が、集計した採点結果をもとに審議し、受賞者を決定する。

7. メーリングリストの運用について

●ML の現在の状況についての報告があった

ML アドレス： bunyu4@r7.div.jps.or.jp

ML のアドレス数上限： 1000

現在の登録アドレス数： 834 （2018 年 9 月 10 日現在）

現在、学会講演者のアドレスは運営委員が登録。

※お願い事項

卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします。転送先での送信エラーが頻発する方もいます。設定、容量等ご確認ください。研究室 ML によって登録されているアドレスからは、bunyu4@d7.div.jps.or.jp への投稿はできません。投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員に直接、ご連絡をお願いします。

8. 関連会議・シンポジウムの紹介

国際ワークショップ：

The 8th TOYOTA RIKEN International Workshop on "Organic Semiconductors, Conductors, and Electronics"

日時：2018 年 10 月 24 日～26 日

場所：豊田理化学研究所

9. 次回大会について

第 74 回年次大会

九州大(伊都キャンパス)

2019 年 3 月 14 日(木)～17 日(日)

10. その他

学生優秀発表賞の申し込み方法について

【要点】

- ・領域 1 代表（田沼先生）から学生賞の申し込み方法について改善の提案があった
- ・現在、領域 1 と同じ学生賞の申し込み方法を採用している領域と足並みをそろえて、物理学会に共同で改善要望を出したい

【問題点】

- ・賞の存在が浸透しておらず、申し込みを忘れる学生が続出
- ・web 上の講演申込時に「学生賞への応募」の項目がないのが原因？
- ・領域 1 では以前から物理学会に改善要求をしているが、単独では効果が薄い

【具体的な改善提案】

学会講演申込の web ページに以下の選択肢を追加する：

=== 申込み web 例 ===

【領域 1, 2, 4, 5, 6, 7, 9, 10 での講演を申込まれる学生の方】

当該領域では学生優秀発表賞を設けております(※1, 2)

- ・学生優秀発表賞に応募しますか? ○はい ○いいえ
- ・(はいと答えた方) 学年を入力してください(例: 修士1年)(入力欄)

※1 領域3の学生優秀発表賞申込み手順については、領域3webページをご覧ください

※2 学生優秀発表賞についての詳細は、各領域のwebページをご覧ください

=====

[この件に関する質疑応答及びコメント]

- ・上記領域1からの提案については、特に反対意見などは出なかった。
- ・発表者全員を審査対象にできないかという意見があったが、審査する側の負担を考慮すると審査希望者を募る現状の形がよいのではないかという回答があった。
- ・学会発表が初めてとなる講演者はメーリングリストに含まれておらず、学生優秀発表賞募集に関する情報が伝わりにくいため、講演申込のwebページ上で応募できる形をとることでその問題が解決するのではないかという意見があった。
- ・現在は学生優秀発表賞に応募し忘れた講演者のための救済措置として、追加募集を行っている。この賞を更に広く周知して浸透させていくことで、将来はこれを改善するよう取り組む必要があるという意見があった。

口頭発表を対象とした学生優秀発表賞の導入について[継続議論中]

審査対象の口頭発表を「1セッションに集約」するか「通常セッションに分散」するか、領域代表、副代表、運営委員で議論中。

「1セッションに集約」する場合

【利点】

1. 発表を比較しやすく、審査が公正。
2. 審査員の人数を少なくできる。
3. 質疑の時間を調整可能。
4. 学会期間中に表彰式ができる。

【問題点】

1. 一次審査が必要になる場合、プログラム編成より前に行う必要がある。
2. 審査員はセッションに張り付くため、個々人の負担は大きい。
3. 講演内容同士の関連が希薄。
4. 学会は情報交換の場であり、賞のためにプログラムを大きく変えることは問題では?

「通常セッションに分散」する場合

【利点】

1. 本来のプログラムを乱さず審査ができる。
2. 審査員個々人の負担が軽い。

【問題点】

1. 発表同士を比較しにくく、審査基準がばらつく。
2. 審査員が多数必要で、審査員確保とスケジュール調整が困難。
3. 座長を審査員とするのは一つの手だが、座長の負担が増える。
4. 表彰式が最終日午後、あるいは次回の学会になる。

【この件に関する質疑応答及びコメント】

意見や質問などは特に出なかったため、春学会におけるポスターセッションの影響を次回学会以降に検証しつつ、口頭発表による審査に関して領域代表、副代表、運営委員で引き続き議論することを確認した。